『コーダ特有』（２月２５日配信）

　コーダをご存じですか。コーダとは、聴こえない親を持つ聴こえる子どものことを言います。コーダならではだと感じたことをお話しします。

　子どもが３人います。全員聴こえるのでコーダです。去年、上の子が小学一年生だった時のことです。子どもと一緒に児童館に行きました。なぜなら子どもが児童館に遊びに行き、持っていった人形を忘れてきてしまったので、一緒に取りに行ったんです。

　受付で忘れたことを自分で言いなさいというと、なんて言えばいいかわからないと言います。そこで気が付きました。親が聞こえている場合は、子どもは受付や電話での会話が聴こえているので、成長の中で自然に身につけています。うちの場合は、私がろう者なので、相手が手話ができない場合は筆談での対応になります。その場合、筆談の内容が見えない、見えても漢字のため読めず伝え方が身につかないのだと、そこで初めて気が付きました。

　子どもに、まずなぜ来たのか目的を話し、今回で言えば人形を忘れたことを伝え、いつ来たかを伝え、最後に人形はありますかと確認するのだと説明しました。受付でその通り伝えたところ、無事人形を受け取れたということがありました。

　親が聴者であれば自然に入ってくる会話の方法などの情報が、コーダには入ってこないのだと思い、今後はその都度伝えていかなければと思いました。